

令和3・4年度長崎県教育委員会指定
「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」

長与町立長与中学校

～全力長与 感動長与 置かれた場所で咲く努力～

研究主任 瀬戸口千年

「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」とは何か(1)

なぜ「キャリア教育」が大切なのか。

①「予測困難な社会」の到来 ②「人口減少と高齢化社会」の到来

目の前の子どもたちは、このような社会に対応できるのか。

子ども達に、①・②のような社会をたくましく生き抜くために資質・能力を身に付けさせる必要がある！

**キャリア教育
の充実**

資質・能力の育成

「ふるさとと新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」とは何か(2)

「ふるさと教育」

ふるさとを対象とした教育全般。長崎県では、ふるさとの特色や課題等の理解を通して、ふるさとへの誇りと愛情を育む教育を指す。



「キャリア教育」

社会的・職業的自立に向け、必要は基盤となる資質・能力を育むことを通して、キャリア発達を促す教育。

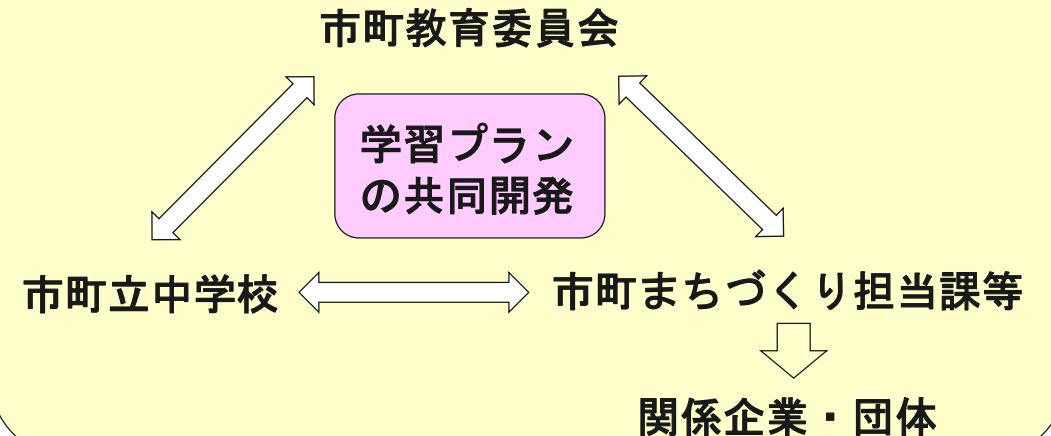
職業体験学習

地域で活躍する大人と協働で、地域の課題解決に主体的、創造的に取り組む等、働くことを基盤とした体験学習。

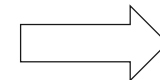
ふるさとを担う実践力

- ①ふるさとを愛し、誇りに思う心情
- ②チャレンジ精神、創造性、探究心当（起業家精神）
- ③情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等（起業家的資質・能力）

（取組） 地域課題の解決を図る学習プランの開発



学習プランの実践



魅力の創出

説明の流れ

- 1 昨年度(研究1年目)の研究**
- 2 今年度(研究2年目)の研究**
- 3 研究の成果**
- 4 研究の課題**

本校の研究へのアプローチ

県指定ふるかり研究に対する本校のアプローチ

長与中学校のキャリア教育の充実を目指す。

これまでに長与中学校
で積み重ねてきたもの

- ・ 総合的な学習の時間での郷土学習
- ・ 地域企業での職場体験学習
- ・ 学力向上の取組



キャリア教育の土台づくり

キャリア教育の充実

資質・能力の育成

ふるさとの活性化

1 昨年度(研究1年目)の研究

研究主題

**ふるさとでの新たな魅力を創出するキャリア
教育の充実**

～系統的な体験学習プログラムを通して～

1 昨年度(研究1年目)の研究

長与中学校研究組織

キャリア教育研究部会

研究推進委員会

研究3部会

- ・活動計画部
- ・情報収集部
- ・資料作成部

長与町の新たな魅力創出会議

長与町役場政策企画課
(町まちづくり担当)

長与町教育委員会

長与中学校

キャリア教育コーディネーター (CC)
[地域の協力者]

1 昨年度(研究1年目)の研究

令和3年度長与中学校校内研究の柱

- 1 長与中学校におけるキャリア教育の充実
ポイント①キャリア教育で育成を目指す資質・能力の設定
- 2 総合的な学習の時間における「ふるさとの新たな魅力を創出する体験学習プログラム」の実践
ポイント②系統的な体験学習プログラムの構築
ポイント③キャリア教育コーディネーター（CC）との協力
- 3 各教科における資質・能力の育成
ポイント④キャリア教育と学力向上のつながり

1 昨年度(研究1年目)の研究

ポイント①キャリア教育で育成を目指す資質・能力の設定

長与中全体で育成を目指す資質・能力	長与中のキャリア教育で育成を目指す資質・能力
主体的に学び続け、課題解決に粘り強く取り組む力	①自分自身の個性や適性を理解する力
	②困難な課題に対して、粘り強く挑戦する力
	③自己実現のために、主体的に学び続ける力
	④課題解決のために、探究的な活動を企画し実行する力
知識・技能を定着させ、実生活に生かす力	⑤集めた情報を整理・分析し、相手や目的、意図に応じてわかりやすく、論理的に表現する力
	⑥学校で学習することと将来働くことを関連付け、自己の生き方を考える力
	⑦実社会・実生活の課題を把握し、これまでに身に付けた力を用いて課題解決に取り組む力
人や社会との関わりの中で、自分の役割を果たす力	⑧異なる意見や考えを受け入れ尊重する力
	⑨郷土の良さを理解し、発信する力
	⑩地域の方との交流によって、郷土の現状を正しく理解する力
	⑪郷土の現状を考え、自分に何ができるかを積極的に考え実行する力

これまでに設定していた長与中学校の学校教育目標から設定した育成を目指す資質・能力



キャリア教育で育成を目指す4つの基礎的・汎用的能力



長与中学校のキャリア教育で育成を目指す11の資質・能力

1 昨年度(研究1年目)の研究

ポイント①キャリア教育で育成を目指す資質・能力の設定

R 4 年度 長与中学校 キャリア教育で育成を目指す資質・能力『ルーブリック』

長与中	1-1の資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
主体的に学び、課題解決に取り組む力を伸ばす	1 自分自身の個性や可能性を認識する力	自分自身の良いところが見つからない。	自分自身の良いところを見つけている。	自分自身の良いところを認識し、それを伸ばす方法を考えることができる。	自分自身の良いところを認識し、伸ばすために行動できる。	自分自身の個性や可能性を生かして、人の役に立つ行動ができる。
	2 様々な課題に対して、粘り強く挑戦する力	自らの課題を解決するためには、困難なことに挑戦しないといけないことに気づいていない。	自らの課題を解決するためには、困難なことに挑戦しないといけないことに気づいている。	課題解決に向けて、課題を分析し、挑戦する方法を考えることができる。	課題解決のために、粘り強く挑戦することができる。	個人や集団の課題を解決するために、粘り強く挑戦することができる。
	3 自ら課題のために、主体的に取り組む力	自らの課題を達成させるために、自分から何を頑張らないといけないか気づいていない。	自らの課題を達成させるために、自分から何を頑張らないといけないか気づいている。	自らの課題を達成させるために、計画を立て、学ぶことができる。	自らの課題を達成させるために、粘り強く取り組むことができる。	自分が主体的に取り組むことができる集団にも良い影響を与えることができる。
	4 課題解決の手段に、創造的な発想を生かして実行する力	課題を自ら見つけることができない。	課題を自ら見つけることができる。	課題解決のための活動を生かして実行できる。	課題解決のために、活動を生かして実行できる。	所属する集団の課題解決のための活動を生かして実行することができる。
知識・技能を定着させ、実生活に生かす力	5 集めた情報を整理・分析し、他者や集団に対してわかりやすく、論理的に説明する力	集めた情報を整理・分析し、他者や集団に対してわかりやすく、論理的に説明することができない。	集めた情報を整理・分析し、他者や集団に対して説明することができる。	集めた情報を整理・分析し、他者や集団に対して説明することができる。	集めた情報を整理・分析し、他者や集団に対して説明することができる。	集めた情報を整理・分析し、他者や集団に対して説明することができる。
	6 学習で習得することや経験したことや知識・技能を、自分の生活や学習に生かす力	学習で習得することや経験したことや知識・技能を、自分の生活や学習に生かすことができない。	自らの得意なことや得意なことを生かすことができる。	得意なことや得意なことを生かすことができる。	得意なことや得意なことを生かすことができる。	得意なことや得意なことを生かすことができる。
	7 社会・生活の課題を認識し、これまでに身に付けた力を生かして課題解決に取り組む力	社会・生活の課題を認識することができない。	社会・生活の課題を認識することができる。	社会・生活の課題を認識することができる。	社会・生活の課題を認識することができる。	社会・生活の課題を認識することができる。
人や社会との関わりの中で、自分の役割を果たす力	8 異なる意見や考えを受け入れ尊重する力	自分と異なる意見や考えを受け入れ尊重することができない。	自分と異なる意見や考えを受け入れ尊重することができる。	異なる意見や考えを受け入れ尊重することができる。	異なる意見や考えを受け入れ尊重することができる。	異なる意見や考えを受け入れ尊重することができる。
	9 他人の意見や考えを受け入れ尊重する力	長与町の長とがわからない。	長与町の長とがわからない。	長与町の長とがわからない。	長与町の長とがわからない。	長与町の長とがわからない。
	10 地域の方との交流を通して、長与町の現状を知り、地域に貢献する力	地域の方との交流を通して、長与町の現状を知ることができない。	地域の方との交流を通して、長与町の現状を知ることができる。	地域の方との交流を通して、長与町の現状を知ることができる。	地域の方との交流を通して、長与町の現状を知ることができる。	地域の方との交流を通して、長与町の現状を知ることができる。
	11 地域の長とがわからない。	地域の長とがわからない。	地域の長とがわからない。	地域の長とがわからない。	地域の長とがわからない。	地域の長とがわからない。

長与中学校キャリア教育ルーブリック表の作成

- ・ 1-1の資質・能力について、生徒の到達度目標をレベル1～5の5段階に設定。
- ・ 3年間でレベル5の姿を目指す。（共通認識）
- ・ 生徒がタブレットでいつでも目を通せるようにし、行事等様々な場面で活用を目指す。

(※実際のルーブリック表は資料P 1 2に記載。)

1 昨年度(研究1年目)の研究

ポイント②系統的な体験学習プログラムの構築

1 年生	2 年生	3 年生
ふるさと長与を知る	ふるさと長与の課題を解決する	ふるさと長与の魅力を創出する
ふるさと長与の現実的な課題や、これまで知らなかった良いところを知る。	1 年生で調べた課題を解決する活動を行う。	2 年間の活動をもとに、長与の魅力を発信する活動を行う。
・ 3 年間同じコースを選択する。 ・ つながり（系統性）を重視した郷土学習の体験学習プログラムを構築する。 系統性		

1 昨年度(研究1年目)の研究

3年間の系統的な体験学習プログラムの例

1 年生	2 年生	3 年生
ふるさと長与を知る	ふるさと長与の課題を解決する	ふるさと長与の魅力を創出する
ふるさと長与の現実的な課題や、これまで知らなかった良いところを知る。	1 年生で調べた課題を解決する活動を行う。	2 年間の活動をもとに、長与の魅力を発信する活動を行う。
「産業」をテーマにしたコースの活動例		
長与町の産業について知るために、商工会、農家等から話を聞いたり、市場調査を行ったりする。	商工会や地域の農家、オリーブ関連業者などから学び、オリーブを使った商品を開発し販売することで後継者不足や認知度不足などの課題を解決する。	各種メディアやインターネットを活用し、オリーブオイルが長与町の新たな魅力となるよう発信する。

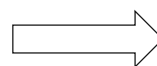
1 昨年度(研究1年目)の研究

ポイント②系統的な体験学習プログラムの構築

「これまでに実施していた職場体験学習」と「郷土学習の体験学習プログラム」の違い

これまでに実施していた職場体験学習	郷土学習の体験学習プログラム
・主に事業所側が体験内容を計画。	・生徒の探究活動の目的に沿った体験学習とする。 ・生徒の主体的な活動を実施する。 ・地域のCCに活動への協力を依頼する。
※生徒の主体的な活動にならないことがある。	※資質・能力の育成を目指した主体的な活動を実施することができる。

これまでに実施していた職場体験学習



郷土学習の体験学習プログラム

1 昨年度(研究1年目)の研究

ポイント③キャリア教育コーディネーターとの協力

これまでの協力者	キャリア教育コーディネーター（CC）
・ 学校側が活動を設定する。	・ 学校側とCCで活動をコーディネートする。
※単年度だけの短期的な協力となる場合が多い。	※系統的なプログラム構築により、継続的な連携体制が築ける。

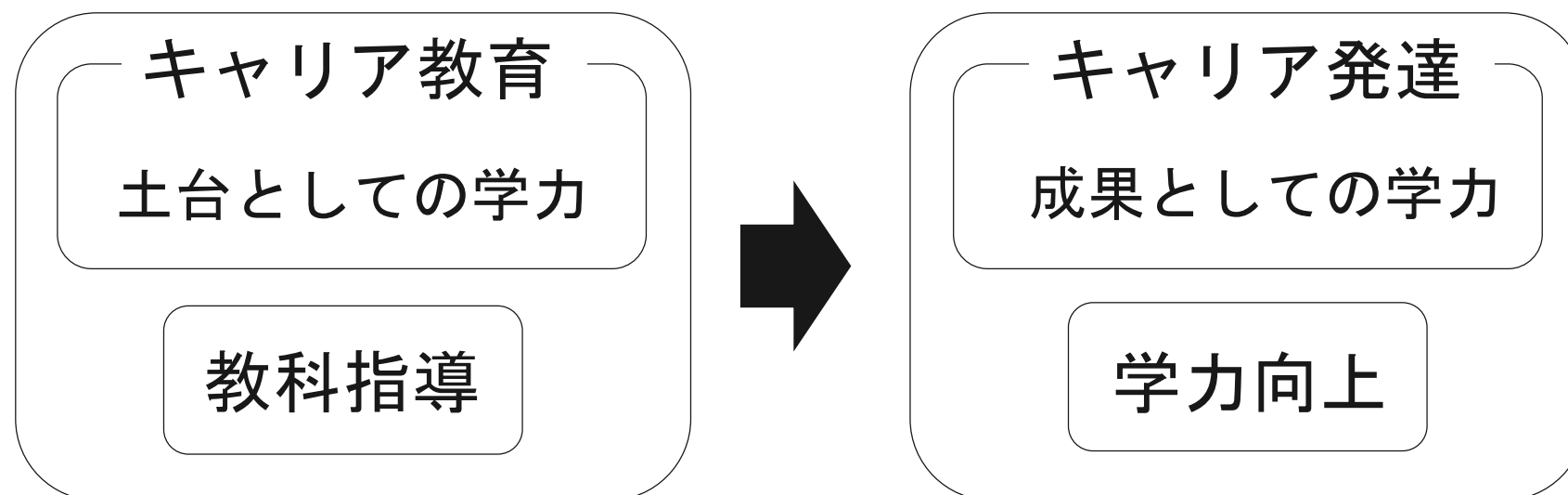
長与町の新たな魅力創出会議の設定（長与町役場との協力体制）

- ①長与町役場まちづくり担当（政策企画課）
 ②長与町教育委員会
 ③長与中学校
- 役場側のコーディネーター
 → 学校側のコーディネーター

1 昨年度(研究1年目)の研究

ポイント④キャリア教育と学力向上のつながり

キャリア教育の中の「学力」の位置づけ



R3年度は、「主体性の育成」というキャリア教育の視点で、各教科の授業とのつながりを意識した。

1 昨年度(研究1年目)の研究 <研究の成果(1年目)>

①長与中学校におけるキャリア教育の充実

- ・ 職員のキャリア教育についての理解が深まり、資質・能力育成についての意識が高まった。
- ・ アンケートの結果から、ほとんど全ての資質・能力についてルーブリック表のレベルの向上が見られた。
(※具体的な数値については、長与中学校ホームページ内にて公開しております。)

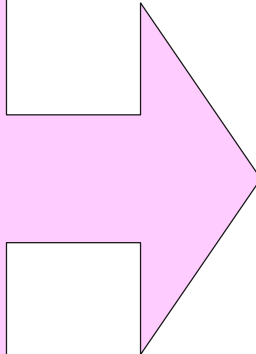
②総合的な学習の時間における「ふるさとの新たな魅力を創出する体験学習プログラム」の実践

- ・ 系統的な学習プログラムを構築し、それぞれの学年での重点的な資質・能力の育成ができた。
- ・ それぞれのコースで生徒の目的意識に沿った活動を行う際などで、キャリア教育コーディネーター（CC）と協力できた。

③各教科における資質・能力の育成

- ・ 生徒の主体性の向上について各教科で意識した成果がルーブリック表のアンケートに結果として表れた。
- ・ 年間を通じて、学年部会・教科部会での学力向上の取組、キャリア教育の充実によって、各種学力調査で前年を上回る結果となった。

1 昨年度(研究1年目)の研究 <研究の課題(1年目)>

- ①キャリア教育の更なる充実
 - ②体験学習プログラムの見直し
 - ③CCとの連携強化
 - ④更なる学力向上の取組
 - ⑤研究組織の見直し
- 

次
年
度
へ

2 今年度(研究2年目)の研究

研究主題

**ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育の充実
～系統的な体験学習プログラム構築を通して～**

研究仮説

長与中学校の全ての教育活動でキャリア教育の実施を図り、また、総合的な学習の時間の郷土学習において、系統的な体験学習プログラムに取り組むことで、ふるさとを担う実践力などを含めた、キャリア教育で目指す資質・能力が育成されるだろう。

2 今年度(研究2年目)の研究

令和4年度長与中学校校内研究の柱

- 1 長与中学校におけるキャリア教育の充実
ポイント① 1 1の資質・能力の育成方法の検討
- 2 「系統的なふるさとと新たな魅力を創出する体験学習プログラム」の実践
ポイント② CCと連携した体験学習プログラムの実践
- 3 学力向上（キャリア発達における相互的な学力の向上）
ポイント③ キャリア教育と学力向上のつながり

2 今年度(研究2年目)の研究

ポイント① 1 1の資質・能力の育成方法の検討

1 1の資質・能力を「学習指導要領の3つの柱」で分類する。

「学びに向かう力、人間性等」：①～④ 「思考力、判断力、表現力等」：⑤～⑦ 「知識及び技能」：⑧～⑪

各教科で「キャリア教育の資質・能力」を育成する方法の検討
(学力向上とのつながり)

キャリア・パスポートの活用方法の見直し

資質・能力の育成と関連付けたキャリア・パスポートの作成→活用

2 今年度(研究2年目)の研究

ポイント②CCと連携した体験学習プログラムの実践

1 年生	2 年生	3 年生
ふるさと長与の良さと課題を知る	ふるさと長与の課題を解決する	ふるさと長与の魅力を創出し発信する
ふるさと長与について、これまでに知らなかった良いところや現実的な課題について、講話を聞くなどの体験活動を行うことでより深く知る。	1 年生で調べたふるさと長与の課題について、具体的な解決方法を考え、体験活動によって解決する。	2 年間の活動内容から、ふるさと長与の新たな魅力を創出し、発信する体験活動を行う。
・それぞれの学年でCCと連携し、生徒の目的が達成できるような体験学習を設定する。 ・学年間の協力（体験活動等の情報共有、同じCCを他学年とシェアする）		

2 今年度(研究2年目)の研究

ポイント③キャリア教育と学力向上のつながり

昨年度までの学力向上の取組の継続

学年部会と教科部会による学力向上の取組の充実

各教科でのキャリア教育の資質・能力育成方法の検討

教科部会を中心とした各教科での資質・能力の育成方法の検討

2 今年度(研究2年目)の研究

総合的な学習の時間の郷土学習における体験学習プログラムの例①

3年「健康づくりと長生き・安心なまちづくり」コース・「住みやすいまちづくり」班

- (1) 課題設定：長与町をもっと住みやすいまちにするためにはどうすればいいか。
- (2) 体験学習：長与町内を散策し、もっと住みやすくするための改善策をまとめた。
- (3) 課題解決：課題解決の手段として、総務省の行政相談員に提案書を提出した。
- (4) 体験学習：生徒が考えた改善策の中で実現ができそうなものについて、行政相談員とともに長与町役場に改善依頼書を提出した。
- (5) 体験成果：役場からの回答を見て、要望を実現するためには、案をしっかりと立てる必要があることがわかった。
→来年度の3年生でもレベルが上がった案を提出し実現してほしい。
(来年度に向けての引継ぎ)

2 今年度(研究2年目)の研究

総合的な学習の時間の郷土学習における体験学習プログラムの例②

2年「産業」コース

- (1) 課題設定：長与町の産業を盛んにするために、新たな魅力を創出し発信する。
- (2) 体験学習：長与町のオリーブから作られたオリーブオイルを販売するための組織をつくるために、西そのぎ商工会・オリーブ協議会と協力した。
- (3) 課題解決：課題解決の手段として、オリーブオイルの販売を行い、来年度長与町の外に発信する活動に取り組む。
- (4) 体験学習：実際に販売するために必要なことをCCから学び、販売の準備を行う。
- (5) 活動成果：長与町のオリーブについて知る、広げる機会となった。
→来年度の2年生でも会社を引き継いでオリーブオイルを販売し広げてほしい。
(来年度に向けての引継ぎ)

3 研究の成果

（研究仮説に対する検証）

①長与中学校のキャリア教育で育成を目指す11の資質・能力の向上が見られた。

※研究仮説に対する検証（資質・能力の育成について）

3 研究の成果

(研究仮説に対する検証)

26

②長与中学校でキャリア教育を進める意識が高まった。

※研究仮説に対する検証（キャリア教育実施、系統的な体験学習プログラム実施について）

3 研究の成果

(研究仮説に対する検証)

27

③地域を巻き込んだ体験学習の土台を構築することができた。

※研究仮説に対する検証（系統的な体験学習プログラム実施〔CCとの連携〕について）

3 研究の成果

(研究仮説に対する検証)

28

④キャリア教育実践が更なる学力向上につながった。

※研究仮説に対する検証（キャリア教育と学力向上とのつながりについて）

4 研究の課題

①キャリア教育の更なる充実

- 資質・能力の確実な育成
- キャリア・パスポートの見直しと更なる活用方法の考察
- ルーブリック表の見直し
- 資質・能力の育成に向けたアプローチ表の作成・活用

4 研究の課題

②地域を巻き込んだふるさとキャリア教育実践の更なる充実

- 小学校・高等学校との連携
- 長与町役場との連携強化
- 更なるCCの開拓（地元企業との連携）

4 研究の課題

③持続可能な体験活動の選定

- 体験学習プログラムの内容見直し
- 予算変更に伴う活動内容の見直し

4 研究の課題

④キャリア教育と学力向上のつながりのモデル化

○キャリア教育と学力向上のつながりのモデル化

4 研究の課題

⑤ 系統的な体験学習プログラムの 見直しと継続

○年度ごとに活動内容を見直す（特に1年生は3学年を見通して活動内容の設定）。